

日本記者クラブ会報

第344号
1998年
(平成10年)
10月10日発行

東京都千代田区内幸町二丁目一
日本プレスセンタービル 100-0011
◎社団法人 日本記者クラブ
☎〇三三五〇三二七二二(代)

初の記者研修を実施

マイクロソフト社が新入会

新装オープン後一カ月が経ちました。和食専用で衣替えしたクラブレストラン、洋食がお好きな会員のための「アラスカ」内会員席、そしてテーブル席が増えたクラブラウンジ。おかげさまで、取材証を携えた現役の記者も顔を見せる

ようになり、レストラン、ラウンジ、バーとも利用度はグリーンと上がりました。

一方、厳しいご批判も頂戴しました。「ソファ席が少なくなりゆっくりにくつろげない」「和食と洋食で好みが違うと一緒に食事ができない」といったお叱りです。



バシエフスキー-USTR代表(右)の昼食会にはフォーリー大使も同席した(9.17)

ごもつともです。できれば新しいソファに取り換えたかったので、逼迫したクラブ財政を考えますとそれも難しく、プレスセンター所有の椅子を借用せざるを得なかったのです。また、食事が和食と洋食で分かれて

しまいましたが、会費収入の落ち込みをカバーするための事業収入拡大策の一つです。来年は会費改定の年でもあり、アップ分を極力抑えるためにも新たな収入の道を見つけておかねばなりません。どうぞご理解のほど、お願いいたします。

地方会員社の強い希望にこたえて、中堅・デスククラスを対象にした「第一回記者研修」を十一月二十七(金)、二十八(土)の両日、実施します。一日目のテーマは「金融・経済問題とその報道」です。元朝日新聞論説副主幹の高橋文利・立命館大学教授と紺谷典子・日本証券経済研究所主任研究員のお二人が対論形式で、バブル経済から金融再生関連法までの経済報道を検証します。

二日目は「職業としての記者」がテーマです。桂敬一・立命館大学教授から「情報化社会の進展の概要と記者の役割」、クラブ賞受賞

者の牧太郎・毎日新聞編集委員から「組織内ジャーナリストの長短」について、話を聞きます。両日とも他ゲストの「昼食会」などを組み込み、最終日夕には、講師陣を交えての懇親会を予定しております。ふるってご参加ください。

先に決まった四項目のクラブ活性化策を実行に移すための規則等の改定を九月二十一日の理事会で了承していただきました。内容はすでにお知らせした通りです。その中で収入拡大のための取り組みがある、新しい賛助会員の入会がありました。コンピュータソフトで世界に冠たるビル・ゲイツ会長率いるマイクロソフト社です。

当クラブは過去十二年間、新たな賛助会員の入会を見合わせてきました。この間、二十数社が退会し、これによる財政への影響は年間千二百万円にもぼっております。そこで、減少分程度の補充が図れるよう緩和していただいたわけで、マイクロソフト社がその第一号です。他に数社の入会も近くお知らせできると思います。

(専務理事 那部 吉正)

ク ラ ブ ゲ ス ト

緒方 貞子 国連難民高等弁務官



昼食会は黙とうから始まった。

前日スイス航空機墜落事故があり、このニューヨークとジュネーブの直行便には国連職員が十数人乗り合わせていた。国連難民高等弁務官事務所のスタッフも二人犠牲になった。一人はアフリカ大湖地方担当部長、一人は一歳半のお子さんのいる女性だという。緒方貞子さんは大きな衝撃を受けておられ、ぜひ出席の方に伝えてほしいとのことだった。

一人一人を大事にする緒方さんの姿勢は会見でも伝わってくる。故郷を離れざるを得なかった難民の「せめて墓参りに行きたい」という声に、耳を傾けている姿が目につく。国内難民化した現状、難民と民兵の混在、帰還後の安全の保証、難民問題の解決はますます難しくなっている。

戦争が終わって報道が少なくなつた時点から国内が安定して本格的な開発にいたるまでの、中間期を「不安定な平和の時代」と緒方さんはいう。この期間に、司法制度の確立、住居整備、女性のエンパワメント、など、和解のためのシステムづくりが必要となる。これをだれが中心となつて推進するか、資金協力をどうするかなど、課題は多い。

「平和をつくることの難しさ」をわかつてほしい、と緒方さんは何回も繰り返した。何度も現場に足を運び自ら感じ取られた中からの言葉は、重みがあった。

九月二十九日の国連総会で全会一致で緒方さんの再選が決定した。会でも統投の意を示していた緒方さんではあったが、「この仕事がなくなくなることがいけばよいのですが」とつけ加えるのを忘れなかった。

NHK解説委員

迫田朋子

9・4(金) 昼食会 司会 迫田
朋子委員 春名幹男委員 出席
112人



左からシンソン中央銀行総裁、バルド貿易産業相、エスピリツ蔵相、1人おいてシアソン外相

フィリピン経済ミッション

スイス航空機墜落「事故で犠牲になつた国連職員のため黙とうをお願いできないでしょうか」。カナダ沖でのスイス航空機墜落で、部下のゲレンティ局長など十一人の国連関係者が亡くなったという▼NYとジュネーブを往復するこの便は、緒方さんはじめ国連の人たちが頻りに利用する。「セスナでアフリカを飛び回っていた彼が、一番安全といわれるスイス・エアで」。緒方さんの気持ちに

そつて、昼食会冒頭、司会者がこのことを紹介し、出席者全員で黙とうした▼国益を離れて世界のために働く同僚、部下への哀悼ばかりでなく、緒方さんのこの提案には、困難な第一線でふんばっている国連の人たちの活動を、他人事でなく理解してあげてほしい、という思いもあったのかも。

(緒方貞子国連難民高等弁務官)

五月の選挙で発足したフィリピンのエストラダ政権初めての大型経済ミッション。

シアソン外相を団長に、エスピリツ蔵相、バルド貿易産業相、シンソン中央銀行総裁と、エストラダ大統領を支えるそうそうたるテクノクラートが、日本からの援助と投資を求めて訪問。この日は、第二十二次円借款(総額千二百七億円)に調印したあと、ひな壇にずらりと並んでの記者会見となった。

アジア全体の経済危機が深刻化するなかで、フィリピン経済は比較的ダメージが少ない。経済成長率は一

ク ラ ブ ゲ ス ト

九九七年が五・三%、通貨危機のおかげで成長に急激なブレーキがかかることは避けられないが、それでも今年の成長率は二一・三%のプラスを確保できるという。ほかの東南アジア諸国連合(ASEAN)諸国が軒並み大幅なマイナス成長になろうとしているところを、「優等生」ぶりが目立つ。

会見でシアソン外相はフィリピンの政治的安定性を強調した。「大統領選が終わったばかりで、あと五年九カ月は大きな国政選挙はない。ラモス政権の外相である自分が、続いて外相を務めているように、政治的安定と継続性は維持されている。フィリピンの政治の成熟を示すものだ」。マレーシアが国際投機資金から身

不破 哲三 共産党委員長

昼食会の四日前、千駄ヶ谷の党本部に不破委員長を訪ねた。めったに足を運ぶことのなかった党本部だが、玄関ロビーの間口が広く、ガラス張りで開放的に変ぼうしていたのには驚いた。
「愛想良く迎えてくれた委員長は「開放的になるとカリスマ性がなく

を守るため、為替管理を再導入すると発表したばかりだったため、フィリピンの考えも注目された。これにはシンソン総裁が、「四十年以上の為替統制の歴史から、為替統制は管理不能で、腐敗につながり、資本逃避を招きやすいとの結論に達している」ときっぱり。

「B級映画の俳優あがり」(英エコノミスト誌)のエストラダ大統領の資質がとく話題になるが、テクノクラートたちの健在ぶりが印象的だった。

TBS経済部長

羽生健二

9・10(木) 記者会見 司会 羽生健二委員 通訳 澄田美都子 出席 81人

てくれればよいと思っている」と語り、党内の自由な議論を強調してみせた。

訪問目的は昼食会の事前の打ち合わせだったが、委員長は「事務局から頼まれた訪中の話については北京での記者会見で明らかにしたし、何をお話したら喜んでいただけるとのなか」と思案顔。当方は「記者クラブの昼食会なのでできるだけ今後の話を」とお願いした。結局テーマは四つに決まり、事務局からの依頼の際に、すでに委員長が了解済みの「日中共産党の歴史的和解」「政権論」に加え、当面の「金融問題」「北朝鮮問題」についてもニュース性を考えて取り上げていただくことにした。

任食会当日、開始十五分前にクラブに到着した委員長に恒例の記念署名をお願いした。「新しい世紀をめざ



9・11(金) 昼食会
司会 和田圭委員 川戸恵子委員
出席 121人

して「不破哲三」――政権取りに向けた委員長の決意表明かとも思ったが、前回も前回も同じ内容だったとわかって控え室は爆笑の渦、委員長は「前と同じだと先に言ってくればいいのに」と恨み節。しかし、すぐに気を取り直して「書いたことは同じでもまわりの状況が変わったので、それでいいんです」と照れ笑い。

そして昼食をはさんでのスピーチでは天皇制容認、野党間の政策共闘、委員長訪韓等々、政権論や党外交での柔軟発言が続いた。

任食の際「中国や韓国だけでなく、訪米して堂々と安保の話でもされてはどうか」と隣席の委員長に乱暴な議論も吹っかけてみた。委員長は、ややためらいを見せながらも「以前はピザがおりなかったんですが、今はそんなこともないでしょうから……」とまんざらでもなさそうなのである。
書記局長就任が二十八年前、委員長歴十六年。柔軟路線を疾走する「ミスター共産党」はどこまで間口を広げるのだろうか。

フジテレビ解説委員

和田 圭

ク ラ ブ ゲ ス ト

金 爽 圭 駐日韓国大使



金大中大統領の訪日を前に行われた金爽圭韓国駐日大使の昼食会は、北朝鮮のミサイル（人工衛星？）が三陸沖に着弾した直後ということもあって、台風五号の関東通過の日だったにもかかわらず盛会であった。

金大使は六月に着任したばかりで、日本語を勉強中とのことだったが、貴賓室では自分の名前の爽圭（ソクキョ）について「一つの百は韓国、もう一つの百が日本を意味し、双方をつないで土を固めるように大きく育てていく人。それが私の役目です」と日本語で説明してくれた。

駐日大使になったとき「半年後は日本語で講演する」と宣言したそうだが、それより早い公約達成で、冒頭スピーチは日本語で行われた。なにしろ英語、スペイン語、イタ

リア語、中国語、ロシア語、そして日本語が使えるというのだから、語学の天才である。

スピーチでは、日韓関係について「金大中大統領の訪日は二十世紀最後の訪日になると思うが、今世紀中に起こったことは今世紀中に片づける絶好のチャンス」と述べ、過去の日本の行為に対して、日本側の責任者が金大大統領訪日時に謝罪すれば、二十一世紀の両国関係に明るい展望が開けるとの見方を示した。

日本側からすれば、すでに天皇も歴代首相もその趣旨を表明したではないか、ということになるが、「責任者の発言の陰で一部の政治家がそれと反対のことを発言するから心からの反省、おわびなのか疑いを持つ」と大使は言う。「韓国は被害者なのだ」とも大使は述べた。

このあたりに日韓の温度差の「ひだ」があるのだろう。二十一世紀の両国関係のビジョンができて、わが国がその「ひだ」を全く忘れてしまったら、韓国人の「反日」「嫌日」には再び火がつくに違いない。

一方、韓国の対北朝鮮政策に関して金大使の発言は、極めて抑制されたものだった。それは金大中大政権の特徴なのだろうが、基本的には「太陽政策」で北を国際社会の構成員に迎え入れたいとの姿勢がにじみ出ていた。ただ、ミサイル発射や潜水艦の韓国侵入にみられるように「太陽政策」ばかりでは解決しない問題もあり、「北風政策」との二重性のジレンマを大使自身が告白していた。

日本政府は、ミサイル事件で朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）への費用分担を見合わせることを打

ち出した（その後修正）。しかし本来、KEDOは北朝鮮の核開発を凍結する見返りとして軽水炉建設に日米韓が協力する計画で、北の軍事的拡大を後退させるためにも促進すべき構

想なのである。国民感情（ナショナルリズム）と冷徹な外交との調和をいかに求めていくか——そんなことを考えさせられた昼食会だった。

中日新聞社取締役論説担当、東京本社論説主幹 宇治敏彦

9・16（水）昼食会 司会 宇治敏彦
彦委員 橋本五郎委員 通訳 李熙燮書記官 出席 12人

シャリーリン・バシエフスキー USTR代表

濃紺のスーツ、濃紺の地に黄色、赤の模様の入ったスカーフ、ゴールドのイヤリング。細身のバシエフスキーさんは、足早に会場に入ると、すぐスピーチを始めた。

昼食会会場から遅れること約一時間。同席のフォーリー駐日米大使らとの昼食も終わっていた。

記者会見直前の中川昭一農相との会談が大幅にずれ込んだためだ。代表は「初顔合わせだったが、彼は大変印象的な政治家だ。米国産コメな

どの問題を話した」と説明した。

同代表は、翌週ニューヨークでの小渕首相とクリントン米大統領の日米首脳会談を前に、日本の金融改革の早期実現、一層の規制緩和、市場開放などを日本側に強く求めるために来日した。

「日米は世界第一、第二の経済大国として特別の責任を持つ」、日本は経済構造改革、規制緩和、市場開放のための明快で、断固とした行動をとる必要がある、「いま、日本が積極的

ク ラ ブ ゲ ス ト



9・17(木) 昼食会 司会 宝利尚一
委員 羽生健二 委員 通訳 小松達也 長井輪子 出席 181人

宝利尚一

読売新聞社論説委員

で、効率的な諸措置を取らなければ、後になってより大きなコストを強いられる」
パシエフスキー代表は学生たちに講義するように、ゆっくりと冷静に話すが、スピーチには断固とした対日要求が盛り込まれている。
同代表は高村外相、与謝野通産相、野田郵政相らとの会談で、十一月のアジア太平洋経済協力会議（APEC）閣僚・非公式首脳会議で、水産物などの優先九分野の早期自由化を求める意向を示したほか、自動車・同部品、板ガラス、政府調達などの一層の規制緩和を求めた。
同代表はまた、来月にも市場開放要求リストを提出し、追加的な規制緩和の推進を求めると言明した。
十八年間、通商法担当弁護士を経験、過去五年間、USTRで活躍し

てきたタフで聡明な交渉者といわれるだけに、日本側との会談では通商交渉の「鉄の女」ふりをいかんなく発揮したようだ。
一問一答では、質問を素早くメモし、丁寧に答えていた。
APECで実質的な関税交渉を行うことについて疑問視する質問もあったが、代表はアジア諸国に対しても自由化促進を求めるという米側の立場を繰り返した。
パシエフスキー代表は会見で改革の遅れ、規制緩和の遅れを批判し、実行を迫ったが、そこには政治的妥協の余地はないように見えた。
クリントン大統領の不倫疑惑と米経済の先行きについての質問があったが、パシエフスキー代表は「大統領は経済問題をきちんと把握している。私は大統領を信頼している」と述べ、大統領に忠実な米高官という立場を崩さなかった。

ク賞推薦委員に湊、藤田両氏

日本記者クラブ賞推薦委員会の委員二名が交代し、新委員に読売新聞出身の湊和夫氏（十文字学園女子大学教授）と共同通信出身の藤田博司氏（上智大学教授）が就任しました。
任期を全うされた前委員の春原昭彦氏と森脇逸男氏のご尽力に深く感謝いたします。同委員会は六名で構成され、任期は慣例で二期四年。

法人会員代表変更

北海道文化放送
（新）木梨芳一 代表取締役社長
（旧）武田圭策
アール・エフ・ラジオ日本
（新）庄司佑治 代表取締役会長
（旧）外山四郎
広島テレビ放送
（新）藤川魏也 代表取締役社長
（旧）山本和郎

ゲスト

▽第20回欧州記者研修
（日本新聞協会 9・

- 26、11・6）G・フェッライノ（イタリア）T・トシュヘル（ハンガリー）G・ファン・カン（オランダ）
- ▽第15回アフリカ英語圏記者研修（フォーリン・プレスセンター 10・4、10・24）K・A・バツンガミレ（ボツワナ）イスラエル・W（エチオピア）J・D・アディ（ガーナ）J・J・ソメ（ケニア）A・A・オギタン（ナイジェリア）D・シャブシャク（南アフリカ）S・パスカル（タンザニア）M・C・カペンデ（ザンビア）

招待券

朝日新聞社から「日本美術院創立百周年記念展」(10/18)、「中島潔の世界展」(11/1)、「レンブラントと巨匠たちの時代展」(11/30)、「イタリアの光—クロード・ロランと理想風景展」(12/6)、「産経新聞社から「私達のジョン・レノン展」(10/13)、「平野光男会員から「ポップ・アート展」(10・5終了)、「大丸ミュージアムから「ジャズ—〇〇年展」(10/27)の招待券をそれぞれご惠贈いただきました。お礼申しあげます。

昭和天皇の「Xデー」



岸田英夫

感じた時も何度かあったが、喜寿を過ぎ、八十歳を超えても天皇に衰えは見られず、八五年には後水尾天皇の記録を抜いて歴代最長寿となる。

このままいけば一体、Xデーはいつになるのやら。すでに五十歳を超えていた私の定年までにあるのか、ないのか。鬱屈した気持ちのやり場がなく、エレベーターで一人になったとき、思いつきり壁をなぐってみたこともある。

変化はある日突然やってきた。八七年九月七日、恒例の天皇と宮内記者会との会見に、那須御用邸を訪れた私は異様な雰囲気を感じたのである。

会見前夜、御用邸内で行われた侍従の近況レクチャーと共に上映されたムービーに見る天皇は、痩せて、表情がけわしく、体調の悪いときに出るクセの口元が動く頻

度が激しい。つい最近、ヘリで伊豆大島に飛び、植樹祭に佐賀県を訪れたときの様子とは随分違う。

翌朝の会見で、天皇は「幸い私は元気ですから安心してくださーい」と述べたものの、記者の質問には「一言三言答えただけで、側から侍従が急ぎ立てるようにワゴン車に乗せた。」

そして九月十一日、那須から帰京した天皇を原宿駅宮廷ホームに出迎えると、青い顔で絨毯の上を歩いて来て一瞬、フラッフラッとよろめいた。「これはただごとではないぞ」と私は身構えた。

それから五日後、私と一緒に宮内庁を回るようになった社会部の記者が、挨拶回りに待医室に行く時、「今、大事な話をしているから……」と追い出された。そのとき、数枚のレントゲン写真が机の上に置いてあったという。

「レントゲン写真って何ですか」私はひそかに関係先に電話した。いつもは和やかに答えてくれる彼が「それは私の口からは言えま

「もう一度社会部に戻って、宮内庁を回ってくれ」という内示を受けたとき、私はゾッとしました。

一九七八（昭和五十三）年のこと。当時の宮内庁担当は「Xデー」と呼ばれた昭和天皇のデス・ウォッチャーが中心で、緊張きわまりない。

任期中に無事こともなく終わった記者は、皇居・坂下門を出るとき、解放感から心底「バンザイ」を叫んだとも伝えられる。

私はすでに六九年から五年余、宮内庁を持ち、昭和天皇、皇后の初の外遊であったヨーロッパ訪問などをやり、やっと放免されて週

刊朝日のデスク生活を楽しんでいたところである。それをもう一度やれ、というのか。

不満たらたら宮内庁に戻ったのだったが、当面する事態に気を取り直し、新しい仕事にかかった。

Xデーに備えての予定稿をはじめ予想される紙面展開のマニユアルを作ったり、「その日」がきて初めて世に出せる昭和史の新資料の発掘に力を注いだ。今も広く引用されている『入江相政日記』は、

そのころ侍従長と約束ができた。天皇が皇居内の諸行事や地方に出るときは、可能な限り接近して顔色をうかがう。「危ないなあ」と



一昼夜抑えた原稿は9月19日付朝刊の1面トップで報じられた

「一刻と状況が明らかになるにつれ、私の胸は高鳴り、武者ぶるいに似た興奮を覚えた。正直言って、私は昭和天皇のXデーを発病の段階からスクープできようとは思っていない

「一刻と状況が明らかになるにつれ、私の胸は高鳴り、武者ぶるいに似た興奮を覚えた。正直言って、私は昭和天皇のXデーを発病の段階からスクープできようとは思っていない

書いた話 書かなかった話

きしだ ひでお会員 一九三〇年三重県生まれ 五九年朝日新聞入社 名古屋東京本社社会部員 北海道支社報道部長 週刊朝日副編集長などを経て皇室担当編集委員 「天皇陛下のご病気・手術」のスクープで昭和六十三年度新聞協会賞受賞 九二年退社 現在 皇室問題ジャーナリスト 著書に「侍従長の昭和史」など

せん」と色をなす。おかしい。それではと、侍従、侍医、皇宮警察から「表」と呼ばれる宮内庁幹部まで、これまでに築いてきたアンテナの人脈を当たれるだけ当たり、翌朝早く、車を取って「朝駆け」に回った。

そこで明らかになったのは、那須での天皇の体調の乱れはひどく、帰京後も吐く日が続き、日曜日にこっそり宮内庁病院で初めてバリウムを飲むレントゲンを撮ったら、腸の上部に通過障害が見つかった。

「がんの疑いが濃い、開いてみなければ（開腹しないと）はつきりとはわからない。たとえがんであっても、天皇の高齢を考え、患

部を切り取る根治手術はせず、食事がとれるだけのバイパス手術にとどめる」という。

その手術は九月二十二日、東大第一外科森岡恭彦教授の執刀で宮内庁病院で行う。天皇入院中の国事行為代行は皇太子、皇太子の訪米中は浩宮……とまで決められているではないか。

天皇の身体にメスが入るのは未曾有のこと。戦後初の沖縄訪問も不発に終わるのか。事態の急展開に私は慄然とした。それで宮内庁はというと、相変わらずの菊のカーテン秘密主義で、公式発表は一切せず、手術の前日、長官が宮内記者会にオフレコで話すらしい。

「これは抜けるかもしれないぞ」

「これは抜けるかもしれないぞ」

「一刻と状況が明らかになるにつれ、私の胸は高鳴り、武者ぶるいに似た興奮を覚えた。正直言って、私は昭和天皇のXデーを発病の段階からスクープできようとは思っていない

「一刻と状況が明らかになるにつれ、私の胸は高鳴り、武者ぶるいに似た興奮を覚えた。正直言って、私は昭和天皇のXデーを発病の段階からスクープできようとは思っていない

長銀問題

一平河クラブ

難解な経済用語に
悪戦苦闘▶ 吉山一輝
(読売新聞社)

についていけないという情けない
思いも味わった。

展開の読み違いもあった。九月
十八日の与野党党首会談では、長
銀処理、法案修正で自民党、民主
党、平和・改革の三会派が合意。
現場にいた記者は一律に「これで
終わった」と息をついた。

ところが、二十日の日曜日に、
森喜朗幹事長ら自民党の幹部がN
HKの「日曜討論」や、テレビ朝
日の「サンデープロジェクト」に
出演し、長銀への資本注入をめぐ
って発言。これを機に議論が再燃
し、与野党協議は迷走を繰り返し
た。

政治決着をしたあとは、役人が
中心になって細部の詰めを行うこ
れまでの手法なら、党首会談は最
終決着の場であるはずだった。今
回の与野党協議は、そうした常識
さえあっさりくつがえしたといえ
る。

事態の收拾のために二十一日に
記者会見した森幹事長は、現行の
金融機能安定化緊急措置法の廃止
を明言することが市場に与える影
響について「私にはよく分からな

い」と率直に述べている。修正協
議で中心となった若手の一人であ
る石原氏は「現場ではいつでも合
意できるのに、上にいくと駄目に
なる」と不満をもらした。

一方、自民党幹部に言わせれば
「若手が勝手に動き、勝手に合意
してしまふ」ということになる。
経済の知識、実務能力をもった若
手の行動に、従来の感覚が身に
ついた幹部と政治部記者が振り回さ
れた形だ。

終わりの見えない与野党協議が
続けられていた二十七日の日曜
日。数十人の政治部、経済部記者
であふれた深夜のキャピトル東急
ホテルのロビーで、同僚の経済部
記者が「これからは本当に政経部
が必要になるんじゃないか」と話
しかけてきた。政治と経済がかつ
てなく結びついた一連の取材から
出た、実感のこもった言葉だっ
た。

よしやま・かずてる 一九九一年入社 政治
部で首相官邸 民主党 共産党を経て 現
在 自民党を担当

長銀問題、金融再生関連法案の
取材は、政治部記者がこれまで「経
済部マター」として遠ざけてきた
難解な経済問題と正面から取り組
まざるを得ない取材となった。当
初は、「経済再生内閣」を掲げた小
淵首相の指導力、宮沢蔵相の果た
す役割といった政治部的なアプロ
ーチを続けてきたが、状況が一変
したのは、衆院金融安定化特別委
員会で審議が進み、与野党で法案
修正協議が始まった九月初めから
だった。

法案修正協議を進める過程で、
与野党の実務者の間では大蔵省の
排除が一つの共通認識となった。

従来なら大蔵省側への取材で、細
かい法案の内容や議論の推移を把
握してきた経済部記者も思うよう
に動けない。必然的に政治部記者
が経済部に頼ってきた部分も担う
ことになっていく。

最初につかつた難題は、不慣
れな経済用語だ。「減資」「第三者
割り当て増資」「貸し倒れ引当金」
……。理解しているはずだったが、
きちんと説明しろと言われるとお
きり上げになる。

取材対象となる政治家は、修正
協議の実務を担当する自民党の保

岡興治、津島雄二、石原伸晃、塩
崎恭久、民主党の仙谷由人、池田
元久、枝野幸男、平和・改革の坂
口力、西川知雄の各氏。弁護士、
元大蔵官僚、元日銀マンら。いず

れも自他ともに認める政策通で、
その口からは専門用語が注釈なし
で飛び出す。夜回り先では他社の
経済部記者と競合することもしば
しばで、にわか勉強では話の内容

株価の急落をきっかけに日本長期信用銀行の経営に対する不信感が高まり、住友信託銀行による救済合併構想が打ち出されてから三カ月が経過した。迷走を続けた長銀処理は、国が長銀株を強制取得して一時国有化（特別公的管理）したうえで、住友信託銀行など他の金融機関に株式譲渡して子会社とする方法が、与野党の有力案として浮上し、決着の見通しがついてきた。しかし、系列ノンバンク、日本リースの会社更生法申請などが、金融システムに動揺を与えており、ソフトランディング（軟着陸）に成功するかどうか予断を許さない。

長銀問題の取材は、思惑が渦巻く政治の迷走と、市場の容赦のない攻撃に悩まされ続けた。

とくに長銀問題は、金融再生関連法案をめぐる与野党対立の象徴として「政局の具」となった。野党は「債務超過だ」「実質的に破綻だ」と繰り返し主張しているが、総資産規模が二十兆円を超える大手銀行の「破綻」を、国会議員が当然のように口にしている例は、かつ

てないのではないかと思う。

金融を別名「信用」と呼ぶように、金融システムの安定は金融機関の経営・財務に対する信用の上になり立っている。どんな優良銀行でも、信用を失い、預金が一斉に引き出されたら、経営は成り立たない。金融とは、根拠のないうわさでも揺らぎかねない、デリケートでもろい面を持つ。

一九二七年三月十四日の衆院予算委で、片岡温直蔵相が「渡辺銀

—金融担当—

長銀問題

政治の迷走に
振り回される

林田 晃雄
(読売新聞社)

行がとうとう破綻いたしました」と失言し、昭和金融大恐慌に至る金融システムの動揺に火をつけたのはあまりにも有名だ。現在の国会で「長銀は破綻しているか否か」が与野党論戦の争点となっていることは、金融担当記者として信じられない現象だ。

金融機関に対する市場の攻撃にも注意が必要だった。実際に、長銀の経営不安は、株価の急低下がきっかけだった。額面の五十円を割り込むかどうかが焦点となった一時期は、長銀の株価のチェックが金融担当記者の朝一番の仕事になった感もあった。

株価は企業の実力のバロメーターであり、市場に参加する多数の投資家が下した「通信簿」といえる。金融機関の経営状態に目を光らせる日銀にも「株価を見ているだけで銀行の本当の経営状態がわかる」と言う幹部さえいる。ただ、市場は利益を求めた投資家が虚々実々のだまし合いを演じる場でもある。投機筋にとつて、うわさを流して銀行株を売り浴びせ、後で安く買い戻してもうけるなど、朝

飯前だ。金融機関は「第二、第三の長銀」の標的にされるのを恐れ、うわさに相当神経質だ。

先日、市場である大手銀行について「デリバティブで二兆円もの損失を出して債務超過になりそうだ」との情報が流れた際、その銀行は否定会見を開いただけでなく、数日後には増資による経営基盤強化を明らかにするなど、経営不安の払拭に躍起だった。

うわさのきっかけや、もつともらしくする材料に新聞などの報道が使われることも多い。

長銀に関しても「公的資金注入を断念」「近く日銀が特別融資を実施」といった報道が流れるたびに長銀株は売られ、長銀関係者は大口預金者に解約を思いとどまるよう説得に走り回った。

入念な取材を積み重ね、真実と確信を持って書いた記事でも「金融不安の引き金を引くことにならなにか」という思いが、ふと頭をよぎることが多い。

はやしだ・あきお 一九八六年入社 経済部
大蔵省 建設省 郵政省 兜町（証券）などを担当

ワーキング
プレス

ワーキング プレス

ロジャー・マリスが保持する米大リーグの本塁打記録六十一本を、カーシナルスのマーク・マグワイアが更新したのは九月八日。全米はもちろん、日本中の野球ファンもこの時ばかりはベナントレースそっちのけで大リーグの本塁打狂騒曲にくぎ付けとなった。

野茂英雄がメジャーに渡った平成七年以降、長谷川、伊良部、吉井ら多くの日本人選手が活躍の舞台を米国に移したことから、日本人の大リーグに向ける関心度は年々高まっていたが、それにしても異国のスポーツ文化に日本人がここまで熱狂するようになったのだから時代は変わった。

当然、新聞における役割・使命も大きい。記録更新の期待がかかった今季は開幕の早い時期からマグワイアの記事を大々的に取り上げるようになった。マリスの六十一本に肩を並べた九月七日の紙面にいたってはカラー面二ページを含む四ページでの対応。これは野茂の初勝利やオールスター戦先発の時をしのぐ扱いだった。

前線取材活動に当たった特派

——米大リーグ——

本塁打争いに 700人強の取材陣

▶ 吉川 達郎
(サンケイスポーツ)

記者の苦労も大きかった。五十八発以降は、取材許可証であるクレデンシャルの申請先が各試合の主催者から大リーグ・コミッション事務局に一括変更されたため、予期せぬトラブルも発生した。マグワイアが六十一本を放った七日のカブス戦(セントルイス)。試合前にクレデンシャルが配布されるはずのブッシュ・スタジアムの事務所に行くと、未発給扱いとなっていた。後でコミッション

側の手違いであることがわかったが、原因は取材陣が七百人以上も殺到したことで機構側が十分に対応しきれない状況に陥ったためだった。

さらに日本では想像もできないような長距離移動の連続による肉体的疲労との戦い。米国中部のセントルイスでマグワイアを取材した翌朝、飛行機でニューヨークへ飛んでヤンキース・伊良部のナイター登板を取材。翌早朝、再びセントルイスへトンボ返りしてデーゲームのマグワイアを取材するという「離れ業」も一度や二度ではなかった。

しかも、これに時差というハンディも加わる。記者が日本の本社と打ち合わせをするのは常に真夜中。明け方近くまで仕事をし、移動の飛行機やバスのなかで睡眠をとるといって生活が長らく続いた。

受け手となる日本のデスク側にもいくつかの戸惑いはあった。今回、白人のマグワイアと黒人のソーサがデッドヒートを展開したことで、米国の一部マスコミが人種差別問題にまで話題を発展させて



最終戦で70本達成——日本のスポーツ紙も1面で大々的に報じた

報じたことがその最たる例だ。

「黒人のソーサがトップに立つことを歓迎しないムードが色濃く、大多数の白人投手はマグワイアに打ちやすい投球をしている」という報道に関しては、正直対応の仕方で戸惑った。

ことの真意はさておき、われわれ日本人には認識の薄い問題。文化や生活習慣の違いといってしまえばそれまでだが、野球を取り巻く土壌が日米では確実に異なるという点を改めて痛感させられもした。

きつかわたろう 一九八四年入社 アマ野球 プロ野球担当を経て 現在 運動部野球デスク

お仕事は？と聞かれて、「新聞の校閲です」と答えると、反応はだいたいの次の二通り。まずは「大変ですね、細かくて」。次に「でも、やはり自分で書きたいでしょ？」

人の原稿を直してばかりいないで。ご心配なく、好きで選んだ仕事ですから。「細かい」作業は気にならない。綿密にやるのが仕事だから。それに、なにも自分で書くばかりが新聞ではない。記事の内容を吟味して、正確な紙面を作るのも面白いんです——と気負って説明していたのが今から十数年前の新人時代。その気概は今も変わらないが、この仕事の難しさは、慣れれば慣れるほど深まってくるように感じる。

機械化により、単純な誤字脱字や送り仮名を直す手間は格段に減った。しかし、その代わりに、JR東日本死者(支社)、動揺(童謡)コンクール、会社更正(更生)法……といった「巧妙な(?)」交換違いには悩まされる。

そして、いくら機械化されてもなくならないのが、記者本人の勘違い。一九八七年の天安門事件↓

一九八九年▽長銀、UBSとの合併解消↓合弁▽売却価格は四百二十万ドル(約五百七十億円)↓約五億七千万円、といった「事実の間違い」の数々。

だからどんな記事にも対処できるように普段から何にでも興味を持って、雑多な知識を仕込んでおく。まずは「なにかおかしい」と感じられる程度に記憶しておけばよい。後は、それを裏付ける資料にできるだけ早くたどりつくため、

——現代校閲記者——

女子高生言葉は鬼門？

▶ 原田 幸治郎
(毎日新聞社)

どの資料で何が分かるかを日ごろから把握しておく。

日々の新聞を綿密に読む者、映画を年間二百本近く見る者、テレビを朝から晩まで見ている者、反対にテレビは嫌いだから本を読んだり、ラジオを聞く者……皆それぞれの方法でアンテナをもつ。

そうして例えば高校野球のことならS君に聞け、となる。「○○選手?」□□高校の二年生の時、センプアの決勝まで行きました。決勝では××投手からホームランを打ちました。ちなみに□□の校歌は一番しか歌えません。常連のPL学園や帝京高校なら二番まで大丈夫です」。こうした「専門家」が多ければ多いほど心強い。

先日、ある企業が今の流行について女子高校生に行ったアンケートを紹介する記事で「ルーズソックス」に関して「マスコミは、もう終わる、とか言ってたけど、そんなの許さん。あれはただマスコミが女高生の話題をのせたいだけ。そうすれば売れるから」。気になったのは、「のせたいだけの」の言いまわし。これって、いわゆる

「女子高生言葉」? 記事には、それ以外にも「ウザク(邪魔に)なってきた」「はつきりいってキモイ(気持ち悪い)」と次々に出てくる。「のせたいだけの」というのも、その一種なのか?

あいにく当校閲部では「女子高生言葉」の専門家は養成していない。まして、すぐ聞けるような現役の女子高生が部に在籍するはずもない。記者本人に「念のため」と問い合わせてみたら……「のせたいだけの」が正解で、打ち間違っていた。「な」が抜けたということだった。ガックリとはきたが、でも確認してみてもよかった。

この「女子高生言葉」はなかなか悩ましい問題だ。流行がいつまでも続くとは思えないが、当座のところ「知らない」という理由で無視するわけにもいかない。かといって「校閲部 女子高生言葉対策班」を作るといふわけにもいかない。個人のボランティアを募るといったところが現状である。

はらだこうじろう 一九八四年入社 編集制作総センター校閲グループで コラム「読めば読むほど」を担当

ワーキング
プレス

岩手県の最高峰、岩手山（二〇三八〇）は、優美な円すい形の姿から「南部片富士」とも呼ばれている。岩手、秋田両県にまたがる十和田・八幡平国立公園の一角を占め、山ろくには何カ所かのスキー場のほか、ペンション・別荘群、企業の保養所などがあり、一大観光・保養基地を形成している。

そんな穏やかな山と思われた岩手山が、活発な火山活動を始めたのがことし三月から。岩手日報社も含め地元マスコミは格好の話題とあって大きく扱ってはいたが、内心は半信半疑であった。特別天然記念物の「焼走り溶岩流」などがあり過去には大噴火もあるが、それも江戸時代のこと。

しかし四月二十九日に一日二百八十五回の火山性地震を記録。盛岡地方気象台が「臨時火山情報」第一号を出したことから、緊張感が一気に高まった。七月一日には登山客の入山も禁止され、「いよいよ噴火か」とさらに緊迫、全国的にも注目され出した。

岩手日報社も編集局次長を班長とする火山活動取材班を編成、へ

ルメット、防じんマスクなど火山用の特別装備も順次そろえていった。しかし雲仙・普賢岳のすさまじさは知っているものの、「実際の火山とはどんなものか」「噴火現場にどれだけ接近できるのか」「安全策は」などどれも分からず、まさに手探り状態。

列島報告

— 岩 手 —

「火山騒動」6カ月

及 川 正 彦

(岩手日報社
報道部次長)

ン。全国からキャンセルが相次ぎ、地元商工団体が緊急経営相談会を開くほど。さらに周辺の温泉街、行楽地にも影響が始め、「まだ噴火もしていないのになぜ」と地元で危機感が走った。

これに追い打ちをかけたのが九月三日の震度6弱の強い地震。震源地が岩手山に近かったことから、「ついに噴火した」と私も含めだれもが思った。震源地に近いスキー場、ペンションは軒並み被害を受けた。火山活動や地震に嫌気をさし、今冬の営業を中止したスキー場も出て観光関係者らはますます不安感を募らせている。

一方では「予言では〇月〇日に噴火する」「すでに噴火、近づくのは危ない」といったデマ、風評も全国に伝播。電波、活字だけでなく、インターネットでも誤解を招くような情報が多く流れた。

この風評被害の直撃を受けたのが山ろくに数十軒あるペンシヨ

日本には八十六の活火山があり、特に活動が活発な十勝岳など二十の火山を「常時観測対象火山」として二十四時間観測している。岩手山は対象外だったが、岩手大、東北大、気象庁だけでなく、国土地理院、通産省地質調査所、科学

技術庁などが大挙繰り出し、噴火予知システム確立に躍起だ。噴火前からこれだけの大観測網を敷くのは前例がないが、いまのところいつ噴火するかはだれも分からない。最近では火山性地震も減り、小康状態なことから、「学者の騒ぎすぎに行政が振り回されている」といった声も聞かれる。

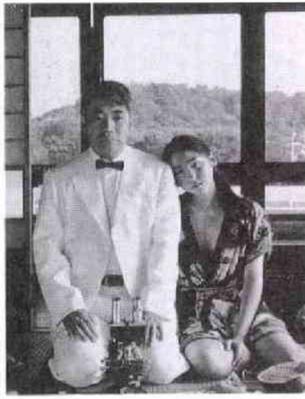
取材側としては当然手は緩められないが、「マスコミも騒ぎ過ぎ」という批判もあるなかで、住民が望む情報をどう提供していくのか。火山災害は長期化する場合が多いだけに、思わぬ「火山騒動」ながら本腰を入れて取り組む覚悟でいる。

(おいかわ・まさひこ)



岩手山の火山活動を伝える
5回続きの連載記事

◀カンゾー先生



『墮落論』で安吾がでたのが昭和三十一年(享年四九)だから、いたしかたない。
それにしても『カンゾー先生』なんて小説は初耳。聞けば角川文庫から『肝臓先生』がでていいる。主人公は、昭和二十年ごろの瀬戸内の町医者。「開業医は足だ」と

澤明の急逝が六日だった。その前後に、映評の誘い。モノ書き開業以来、たのまれた書評は、数えきれないが『映評受注』は初体験である。
お湯割りのグラスを抱いてワープロの前に座ったものの、老生も安吾センセイには面識がない。

夏空にヒロシマ原爆のキノコ雲が遠望される日に、ソノ子に扮する麻生久美子が裸でクジラと泳ぐ評判の見せ場がある。ソノ子は幼いころから、女郎あがりの母親に「タダマンを許す男は生涯に一人きりよ」と教えられている。

なるほどタダマンねえ…と、クリントンへ連想が飛ぶ。
ハタタほど高いものは無い▽
産経新聞OB 中川 朗

島々の患者を診てまわるが「あんたも肝臓をやられていいるナ」が口癖である。旧帝国陸軍や、昨今の医師への皮肉がピリ辛で効いている。土葬した遺体から肝臓を失敬する話もあつて、臓器移植を思わせる。

試写会

▼トゥルーマン・ショー



テレビ番組でもっとも面白いのは、普通のひとの日常生活ではないだろうか。「ちよつとした出来事」が加わるともつといい。

つねづね、そう思っていた。だから、駅、空港、商店街、学校の教室などにカメラを据え付けて、ただ映像を流すだけの番組があれば、結構、興味をそえられるだろう。私なら札幌にいる二人の孫の姿を四六時中、テレビで見たい。

いま、私がTVプロデューサーだったら、米国野球界の最多本塁打争いをとりあげる。対象はマグワイアとソーサではない。外野席に複数のカメラを設置して、ホームランボールを奪い合う光景、それを手にした人の表情、その後の光景などを追う。

見終わって、そんな連想をかきたてられた。
映画では、トゥルーマンの生まれてからの人生が、全世界に向け二十四時間ノンストップ生

中継される。初めてよちよち歩きをしたとき、学校での出来事、初恋、仕事ぶり……。日常のすべてが放映される。視聴者は、彼に感情移入する。

主人公は、自分がカメラに収められていることを知らない。しかし、ある日、このことに気づく。自分の人生が何者かに操られていることを。だれかに見られていることを。そこからの脱出にもがき苦しむ。そして、成功する。

奇抜な発想のSF映画だが、ありえない話ではないと思わせる。そこがこの映画のポイントである。

実際、私を含めて多くの大衆は、このような覗き趣味の番組があれば、という願望を持っている。消費者の潜在的な欲求を顕在化して商業ベースにのせる。それが、資本主義の法則というものだ。

それにしても、テーマは重い。私たちもまた、トゥルーマンと同様に、だれかに自分の人生を預けているのではないか。自分のリズムで人生を生きられないとしたら、なんと白々しいことか。

朝日新聞OB 栗田 房穂

プロフィール

◇法人賛助会員

■会議報告■

第123回施設運営委員会

(9・1 ゴールドルーム)

委員交代(新聞協会・佐藤嘉男氏から今田昭氏)を報告したあと、七、八月の会議室とアラスカの売り上げについて事務局が説明した。クラブ活性化策に伴う「クラブ利用に関するお願い」の改定案を作成し、理事会へ上程することにした。

出席 石川委員長、今田、田村、山

田、宮川の各委員。

第195回会報委員会

(9・18 シルバールーム)

委員交代(新聞協会・塚越喜昭氏から平野恭子広報担当主管)を報告したあと、「会報アンケート」の結果について意見交換し、十月号の編集を協議した。

出席 住田委員長、久保、秋山、伊

波、埜邑、平野の各委員。

第253回会員資格委員会

(9・18 小会議室)

十月一日付の入退会を審議し、理事会に答申した。法人賛助会員の入会勧誘候補社について意見交換し、次回委員会で最終的なリストを作成することにした。

(九月一日付入会の法人賛助会員の方々です)

出席 松崎委員長、小田、河西、伊藤、

市村、船田、佐藤の各委員。

第309回理事会

(9・21 大会議室)

一、明年十一月一日の創立三十周年の際に、以下の記念事業を行うことを決めた。

- ①『三十年史』の作成、②会報に連載の「書いた話 書かなかった話」と「新春随想」をまとめた「とっておきの話」(4)の刊行、③記念パーティーの開催。各界要人を招待するほか、歴代理事長および八十歳以上のD会員に記念品を贈る。

一、クラブ活性化策に従い「会費規則」「施行細則」「クラブ利用のお願い」の改定を承認した。

一、左記の各氏に第十一期日本記者クラブ賞推薦委員を委嘱することとを決定した。(順不同、敬称略 * 印新任)

池田龍夫(個人D)、深谷憲一(同)、* 湊和夫(同)、* 藤田博司(同)、南部哲郎(新聞協会審査室長)、村澤繁夫(民間放送連盟番組・著作権部長)

一、七、八月のリノベーションについて報告があり、費用(約九千六百万円)を了承した。

出席 加藤理事長、杉田副理事長、

那部専務理事、神塚、木戸、

住田、松崎、榊原、田村(泰)、

玉川、恒川、小笠原、木下、

田畑、三辺、石川、田村(哲)、

村上、酒井、宮地の各理事。

矢野、夏目の両監事。

第269回企画委員会

(9・22 宴会場)

木戸新委員長のあいさつのあと、委員交代(読売・小島敦氏から橋本五郎編集局次長、フジテレビ・小櫃真佐巳氏から和田圭解説委員)と新委員の千野境子・産経編集委員兼論説委員が紹介された。十一月二十七、二十八日に「金融・経済問題とその報道」「職業としての記者」をテーマに、中堅・デスククラスを対象にした第一回「記者研修」を実施することを決定した。

出席 木戸委員長、住川、岸井、橋

本、宝利、立岩、千野、宇治、

春名、福沢、迫田、羽生、川

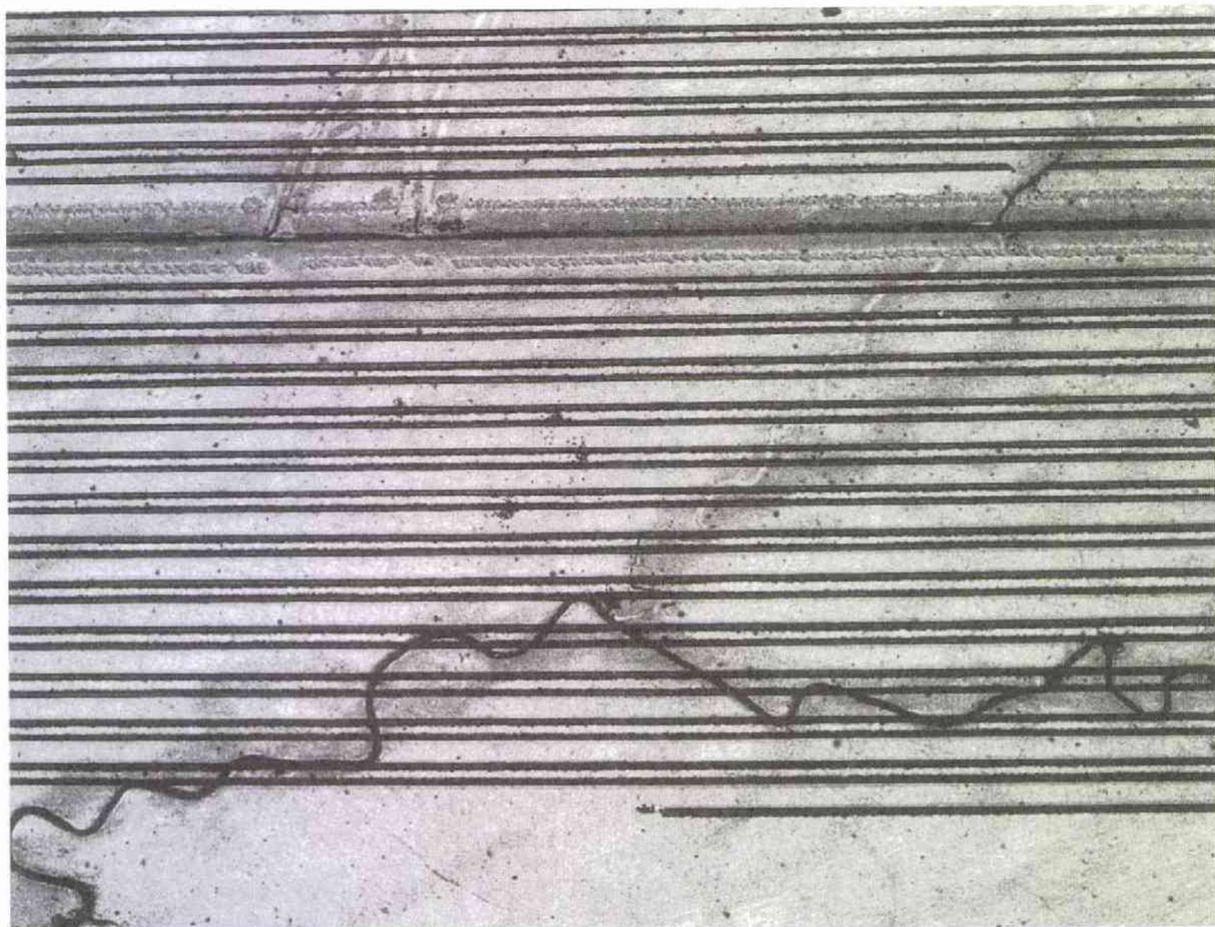
戸、菱山、和田(圭)、和田(義)、

ワケナ、浅井の各委員。

写真家

写真 矢辺 拓朗

(1995年共同通信入社)
(現在 福岡支社写真部)



諫早湾の堤防が閉め切られて1年半。干潟を乾燥させるための溝と潮だまりの跡が作った曲線がコントラストを描く

(8.26 上空700Mのヘリから)

500日後の文様

わがふるさとには愛知県の渥美半島。小さな峠を越えて五キロほど行くと、美しくおだやかな三河湾に出る。

アルバムをみれば、赤ん坊のときから父母に抱かれてこの海に入っていた。小学生のころはことに、夏休みを待ちかねるようになっていった。

海はいつも上機嫌で、波を輝かせて迎えてくれた。

泳ぐのにあきると砂浜に池を掘り、波打ち際で魚や貝をとる。透き通った水底で、ハゼやコチの幼魚が砂にまぎれるようにしているのを、両手でかこみ込んで岸へおしあげる。

やがて潮がみちて池は崩れてしまうのだが、それはそれで物事には終わりがあり、しかし悲観するほどのことでもなく明日またやればいいのだと、楽天的な持続の気分をもつのに役立った。

その海が消え、かわりに白い工場群が並んだのは十年あまり前。お定まりのバブルのころだ。むかしの海のなか、いまは四車線の道路を走るとあっちこっちに空き地があつて、そこは草ぼうぼう。水平線に代わって現れた地平線まで、荒涼とした風景が続いている。

諫早湾の、きつと何千日後の姿だ。

(小川津根子)

住所・役職変更をお知らせください

新しい会員名簿(十一月一日現在)を作成します。個人D会員、特別賛助会員の方々に住所、連絡先、役職などに変更がありましたら、事務局へお知らせください。七ヶタの郵便番号で勤務先が個別の指定番号をお持ちの場合もご連絡ください。

十月二十九日に秋のゴルフコンペ

第72回ゴルフ会を左記のように行います。

日時 十月二十九日(木) 午前八時三十分集合

コース 厚木国際カントリー倶楽部

参加ご希望の方は、事務局の小橋(三三〇三二一七二二)までご連絡ください。

寄贈書

日本語発音アクセント辞典(新版)

日本放送出版協会

訃報

山本保会員(産経、エフエムジャパン出身、74歳)が九月十七日肺がんのため、森信二郎会員(朝日論説委員、51歳)が同二十八日大腸がんのため死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員現況 法人会員 一四九社 基本会員 八一

七人 個人会員 一、八四八人 法人・個人賛助

会員 五七社 一八四人 特別賛助会員 五二人

名誉・功勞会員 一五人

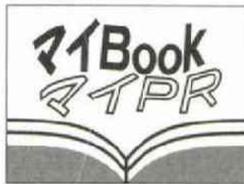
計 二〇六社 二、九一六人

『最後のロシア皇帝』

菊池哲郎(毎日新聞経済部長)

現在の世界の状況は、世界の体質が変化したことによって起きている混乱だと思ふ。体質変化の原因は共産圏の消滅による哲学なき無思想の時代の到来だ。その最たるものが、アメリカ式アダムスミスの神がないマネーマーケットメカニズムだ。そこには目的がなく手法だけがある。市場主義を受け入れるか、ミサイル攻撃を受けたいか、二つに一つを選べというアメリカの自己矛盾の中で、人類を救う選択肢の鍵は日本が握っている、と思いたいではないか。

(光文社 カップブックス 八二九円)



シニスム、ラスプーチン伝説の実相：しかし、アナスタシア伝説が消えたことは正直言つてチョッピリ淋しい。

(ちくま新書 六六〇円)

植田 樹(NHK解説委員)

今夏、八十年ぶりに様々な論争の中で国葬がとり行われた。隣国の歴史の真実は我が国では意外なほど知られていない。新資料によって従来の唯物史観とは違う角度からニコライの人物像に光を当て直した。革命政權の嘘と欺まんの

レストラン利用の際はテーブル予約を

◇和食 9階レストラン

予約電話 3503-2721

◇洋食 10階レストラン「アラスカ」

予約電話 3503-2731

会員席で手ごろな価格の「会員メニュー」を用意しています。接客の際は二割引きが適用される一般席の利用をお勧めします。

十月の行事 (6日現在)

14日(水) 午後5時30分～試写会「宋家の三姉妹」

20日(火) 午前11時30分～12時30分 マハテ

26日(月) 正午～午後2時 北島敬介検事総

29日(木) 正午～午後2時 今井敬経団連会

長昼食会

会報委員会

委員長 住田良能

委員 久保伸太郎 秋山民雄 伊波新之助

林邑義道 和田千年 平野恭子

連絡 長谷川和子 本庄五月

(電話) 〇三―三五〇三―二七二二

(FAX) 〇三―三五〇三―二七二二